



草木染め手紡ぎ毛糸
スピクラフト岩泉



羊グッズ
ひつじがりや



木工作家
wood works crando



サフォーク靴下
はらっぱ・羊

創作衣服 中 新



シルバージュエリー
彫金工房 あんべ

家で糸を紡ぐ

homespun

と

手しごと

vol.27



お問い合わせ
展勝地レストハウス

〒024-0043
岩手県北上市立花14-21-1
TEL 0197-64-2110
FAX 0197-64-2210
E-mail: chiiki@ginga-net.ne.jp

展勝地レストハウス

検索

会 期
2020
11.20 (金)
~11.29 (日)
- 24日 (火) 定休日 -

午前10~午後5時

会 場
展勝地レストハウス





高村光太郎とホームспан

1945（昭和20）年5月、花巻へ疎開した光太郎は、戦後7年間に稗貫郡太田村山口（現・花巻市太田山口）で過ごしました。

この頃 光太郎は知人への手紙にこの地で「日本最高文化の集落」を10年計画で建設すると記しており、その後、夢の実現として「太田村をホームспанの産地にしたい、青年たちには陶芸づくりをさせる、娘たちには羊を飼わせ植物染料・手紡ぎ・手織りの本格ホームспанを作らせる」と語ったとされています。

光太郎にはホームспанの大切な想い出がありました。大正末か昭和初めに、東京でイギリスの著名な染織家エセル・メレの作品展が催されたとき、智恵子にこの1点だけは何としても欲しいと懇願され、ホームспанの毛布を購入したという話です。光太郎は亡くなるまで智恵子の想い出とともにこの毛布を大切にしていたといいます。

光太郎は、太田村山口をホームспанの産地にしたいと望むと同時に、自身が身に着けるものとしてオーダーメイドでホームспан製の獵人服を作っています。背中一面に巨大なポケットが付いていて、スケッチブックも入れられるという優れものです。

（高村光太郎記念館で常設展示しています）

現在、県内では様々な形で「ホームспан」という技術が受け継がれ伝承されています。光太郎のまいたホームспанという夢の種は山口では花開かなかったものの、少しずつ岩手の地に広がっていったように感じます。

資料提供 高村光太郎記念館

館長 佐々木正晴

